

第21回新年初歩き  
土佐道路の金高堂集合↓あじろ山↓  
乗馬クラブ↓果樹園↓荒倉神社  
上岡 積



初歩きは、1990年に山の会の「新年ハイキング」として始まったが、1995年に高退協にも呼び掛けて、「高退協・山の会合同初歩きと新年会」に発展した。

当初は地域の高退協会員が、コースの選定・新年会の会場設営など運営を担当して、南国、伊野、南国、朝倉、佐川グループと続いた。芸西（考える村）安芸（野良時計、家屋敷など）も歩いたが、高退協会員数が少なく山の会が運営を担当し、以後はすべて山の会が担当している。

1999年に行われた佐川では、43名の参加者が15キロの道を歩き、「罰歌わだ」で天才キャ



初歩き後の新年会

クをして、終列車で高知まで帰った。その後10年あまりは参加者30〜40名で続いたが、最近は何かに参加者が減っている。以前は盛んであった研修旅行も参加者が少なくなり3年前から中断しているようだが、高退協全体の活力が衰えかけているようさびしい。

本年は、土佐道路の金高堂集合↓あじろ山↓乗馬クラブ↓果樹園↓荒倉神社を歩いた。あじろ山は子ども遊び場として整備されていて、ツリーハウスや岩登りのロープなどあるが、坂のきつさは侮れない。正月のご馳走と酒、運動不足でなまった

に遅し、辺りの畑は収穫が終わっている。引き返してはだくというようにはしたくない。高退協の紳士淑女にはできない。それでも商品価値がない取り残しを頂きながら楽しく歩く。

3時前に荒倉神社に着いた。最近見かけなくなった美しい小鳥・シヨウビンがいたが、今年は何かいいことがある予兆とみた。

新年会は、3名帰りの1名新参加者12名に参加して12名。一人ひとりが今年の抱負を語るなど、和気あいあいの中に、明日の英気を養う。まだ参加していない人は一度出て来ませんか。楽しい会ですよ。

【教え子を再び戦場に送るな！】

「集団的自衛権行使」に道をむらく閣議決定撤回を求める退職教職員1万人アピール

【全通教職員への訴え】

**賛同表明カード**

退教組織名	
お名前	
退教時の学校名・勤務地	

**1万人アピールを同封しています。まだの方は一歩踏み出しましょう**

七十歳で芝居をしているの好きの私。ことの始めは八年前、佐川町演劇講座にボケ防止にと申し込んだことからだ。「お前らあ死人の役もでさん。」と言われながら約四年。現在は残った七名で「劇団・どっと」を結成し細々と活動している。

そんな私たちに昨年八月頃、坂東眞砂子さん追悼公演をしないかと話が合った。佐川など舞台の小説「道祖土家の猿嫁」を、役者の力量や人数を考え不安もあったが助けを借りてやってみようと思われ練習に入った。

そして、今年の一月二十五日、佐川町桜座にて、道祖土家の猿嫁より「ふき」と題して追悼公演を行った。当日は宣伝効果や坂東ファンも駆けつけ満員の舞台となった。初体験の九名も堂々の演技、全

員の力で二時間三十分を演じた。私は、民権お蔭でセリフも多く難儀したが、今の世と重なる内容があり、やり甲斐があった。昭和四年の蔭のセリフ「近頃新聞や本らあじゃ何にも言わんけんど、世の中どうもおかしげな方向に進みよる。治安維持法は、改悪されるは、それに反対した労働党代議士は殺されるは、警察に特高が出来て頭の中の考えまであれこれ詮索してくる。中略何かがどうなりゆうかさうぶり分かんまわれの分からん所に引きずり込まれて行きゆう気がする。」

**趣味悠々**

葛さんの  
おもいを今の世に重ね  
演じる我は  
平和を願う



お蔭を演じる渡辺さん(左)

この舞台を通じ、特技を持った地域の人の存在を知り支援の輪に囲まれたこと、戦争体験や地元の風習や人物像を絵物語のように聞かせてくれたお年寄りに教えを得たことを感謝と同時に四十年近く住みながら斗賀野の史実を深く知らないことを反省。

四ヶ月間の多忙で不規則な生活とセリフ覚えからやっと解放された今、「この間のお蔭よかったね」と見知らぬ人からも声を掛けてもらい、又々やる気が出ている私。

渡辺 絹子